

## 博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	山形 真由美	(****年**月**日)
本 籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(保健看護学)	
学位授与番号	甲第159号	
学位授与日付	令和2年3月20日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論 文 題 目	高齢療養者の医療処置を担う介護者への訪問看護師のケアリング行動に関する研究	
審 査 委 員	教授 富田 早苗	教授 波川 京子
	教授 中新 美保子	

### 博士論文内容の要旨

本研究は、高齢療養者の医療処置を担う介護者への訪問看護師のケアリング行動尺度および訪問看護師のケアリング行動への介護者の認知尺度の開発、ケアリング行動への介護者の認知が介護負担感に与える影響を検証することを目的とした。訪問看護師10人への質的研究をもとにケアリング行動を明らかにした。その後、47都道府県497人の訪問看護師の調査から「関係性を育む」「医療処置の力を引き出す」「肯定的感情を共にする」「元からある生活を守る」「気持ちをやわらげる」「安心を気づかい介入する」の6因子32項目の訪問看護師のケアリング行動尺度を開発した。さらに、介護者175人の調査から「信頼」「安心」「共通理解への配慮」「気持ちの癒し」の4因子24項目の介護者による訪問看護師のケアリング行動認知尺度の開発をした。これらの尺度は、いずれも統計学的な許容水準を満たし、信頼性、妥当性を有することが確認された。ケアリング行動への介護者の認知と介護負担感に関する因果関係モデルの適合度も統計学的許容水準を満たしており、介護者が訪問看護師のケアリング行動を高く認知することは、介護負担感軽減に影響することを明らかにした。

### 博士論文審査結果の要旨

1月14日の審査委員会では、①高齢療養者の医療処置を担う介護者の特性に合わせた訪問看護師のケアリング行動尺度のみでなく、介護者の認知尺度も開発していることから目的等を見直すこと、②介護者の認知尺度の開発に関しては、調査対象者である介護者の回収率が低かったこと、訪問看護師に調査を依頼していることから選択バイアスが生じた可能性等の記載、③訪問看護師のケアリング行動と介護者の認知の比較について、特に介護者の認知が低かった項目を強調すること等、加筆修正を求めた。

従来のケアリングとの比較において、本研究の特殊性を論じており、さらに、データ収集と分析方法も丁寧に論述されていたことから、審査委員会において、博士論文(甲)の審査の結果を「合格」とした。